

「ここに住んで良かった」と思える地域を目指して

大芋活性化委員会

1、大芋地区とは（大芋地区の実態）

[位置]・篠山市の東部

・京都府との府県境…京丹波町に隣接

[交通]・国道173号線（大阪～京都綾部市）が南北に

・府県道京丹波篠山線

・県道本郷藤坂線

[構成]・自治会数…11（高齢化率40%超6、うち50%超2自治会）

・人口939人（平成23年5月末）364軒（1106名 平成17年）

・高齢化率 39.7%

・大芋小学校児童数 25名（平成24年度）

[過去3回の町村合併]

・大芋村→多紀村（町）→篠山町→篠山市

・公共施設等の統廃合

大芋診療所、役場、大芋保育園（H17.4）JA大芋支店（H18.4）

・現在ある公共施設等

大芋小学校、大芋駐在所、大芋公民館、福井郵便局

2、大芋活性化委員会立ち上げの背景

（2005年・H17～2009年・H21.2）… 第1期

[地域課題]

- 1) 若者人口の流出や少子化…小学校が廃校になるのではという危機感
- 2) 高齢化（40%近くに）…コミュニティ力の低下に対する危機感
- 3) 主要な施設がなくなることに對する危機感

[課題解決に向けて]

・大芋校区自治会長会…各種団体に呼びかけ活性化に向けた取り組みを提案

・大芋活性化委員会設立（平成17年2月18日）

・県民交流広場事業（モデル事業）の採択（平成17年8月）

[活動]・大芋小学校存続に向けた全戸署名活動の実施（平成17年11月）

・陳情書の提出…篠山市長、市議会議長、市教育委員長（平成17年12月）

・高齢者が集う場づくりについて検討…実現するのは平成20年3月

[県民交流広場事業]

・ハード面の整備

拠点整備…大芋公民館、JA大芋支店

パソコンの購入、音響設備の購入

3、大芋地区の更なる活性化を願って

(2009年・H21.2～2012年・H24.3) …第2期

- 1) 大芋地域活性化フォーラム(2009年2月)
 - ・みんなが元気になるための取り組みの出発点となる
- 2) 2009年度の取り組み
 - ・大芋地区防災訓練
 - ・戦争体験を語る夕べ
 - ・大芋の空に熱気球が飛ぶ

3) 小規模集落元気作戦(2009年度～2011年度)

- ・都市との交流事業…ライフボックス、アエルクラフトとの交流
- ・交流拠点の建設…大芋の楽農かまど(市野々)
- ・大芋の里大体験の実施(2012年1月22日)

メダカのコタロー劇団及びサンテレビの地域環境事業
篠山東雲高等学校の協力

4、大芋活性化委員会の組織と活動

○事業をつなげていく

○地域をつなげていく

広報部会	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり通信の発行 ・大芋ふるさとネットの配信 ・パソコン教室 	
地域環境部会	<ul style="list-style-type: none"> ・大きい芋コンテスト ・みくまりダムの植樹とピオトーゾの観察 ・ウオークラリー(マツブ・看板) 	
少子化部会	<ul style="list-style-type: none"> ・通学合宿 	
福祉部会	<ul style="list-style-type: none"> ・移送サービス ・生きがいデザインサービス ・クリスマス会 ・歌ごえサロン ・地域福祉を考える集い 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツクラブ 21 大芋と共催
全体事業 関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・大芋の楽農かまど ・大芋の里大体験 ・男性料理教室 ・三世代グートボール大会 ・大芋文化祭 ・大芋まつり 	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会 実行委員会 実行委員会

5、福祉部会の取り組み

1) 生きがいデイサービス

- ・ 75歳以上一人暮らしの人が対象
- ・ 平成20年3月に始めての「大芋サロン」を開催
- ・ 平成20年7月、生きがい対応型デイサービス大芋（篠山市社会福祉協議会）
- ・ 大芋クリスマス会（スボーツクラブ21大芋と共催）
- ・ 平成23年度より活性化委員会での単独開催
- ・ グループホーム篠山東に入所の大芋出身者も参加

2) 移送サービス

- ・ 篠山市移送サービス会議（2回）（平成21年）
- ・ アンケートの実施
- ・ 地域福祉を考える集い…移送サービス事業設立を提案（平成22年3月）
- ・ 移送サービス開始（平成22年9月20日）
- ・ 無償ボランティア移送について陸運局と協議（メールでの話し合い）
- ・ 利用件数（月50件程度）

3) 歌ごえサロン

- ・ 誰でも参加できる
- ・ 平成24年からの新事業

4) 地域アクションプラン

5) 参加者・利用者の声

サロン・デイサービスに参加して

- ・ 家に一人できるとあまり笑うことがない。今日は3, 4日分笑わせてもらえて、とても楽しかった（丹波新聞）
- ・ よく動いて気持ちよかった。体が曲がらんよう、家でもやりたい。（神戸新聞）
- ・ みんなと一緒に歌うのは楽しい（丹波新聞）
- ・ 歌が好きだからサロンを心待ちにしていた（丹波新聞）

移送サービスを利用して

- ・ いざというときに利用でき安心する。（丹波新聞）
- ・ 一人暮らしには本当に助かる。こんな制度をこしらえてもらってうれしい。
- ・ 神様みたい。不便などところにいるので、とても助かっています。（丹波新聞）
- ・ 玄関から玄関まで、雨の日も風の日も助けられている。高齢者の健康には変化にとんだ生活が必要で、買い物にも利用できてうれしい。
- ・ 診療所に行くのに助かる。いつまでも続けて欲しい。
- ・ 雨の日も荷物がある日も助かります。
- ・ 息子と嫁の3人で暮らしているが、都合がつかないときは利用させていただいている。（丹波新聞）

6、成果と課題

○第2期の3年間は「元気な大芋」を目標に活動してきました。

- ・平成21年は元気ではなかった
 - ・平成23年はかまどの完成、移送サービスが順調に進み、少し元気が出てきた
- 第2期のまとめとして

- ・活性化フォーラムを開催（2012年6月2日）
- ・地域課題…活性化委員会設立当時の3つの課題
 - 1) 少子化…学校がなくなるのではという危機感→いまなお続く課題
 - 2) 高齢化…地域コミュニティ力の低下→少し解決しつつある
 - 3) 主要施設がなくなる→

○第3期…「ここに住んで良かったと思える」大芋をめざして

- 1、福祉のまちづくり
 - ・高齢者を大切にするコミュニティ（県下No.1を目指せ）
移送サービス、生きがいデイサービス、歌ごえサロン
 - ・郷土愛の醸成に向けた取り組み
通学合宿、クリスマス会、クリスマス大作戦（スポーツクラブ21の取組）
 - ・地域福祉を考える集い
- 2、安心・安全なまちづくり
 - ・見守り活動の充実（高齢者及び登下校）
 - ・災害時避難マニュアルの作成と避難訓練の実施
 - ・災害時要援護者への支援活動の徹底化（日常の見守り活動）
 - ・青パト等による地区内防犯活動の充実
- 3、里山を大切にしまちづくり
 - ・みくまりダムでの植樹とピオトープを活用した環境教育
 - ・ひかげつつじ、節分草をはじめとする草木の保護育成
 - ・ほたるの里、かぶと虫の里づくり
 - ・大芋キッズリーダーハウス山の整備と交流の場作り
 - ・有害鳥獣対策
- 4、交流人口を増やし、大芋ファンを育てるまちづくり
 - ・大芋の里大体験の開催
 - ・大芋の楽農かまどを活用した取り組み
 - ・大芋30選をはじめ地区内散策マップ及び案内看板の作成
 - ・空き家や遊休地を有効利用した取り組み

以上が大芋活性化委員会が目指そうとする地域コミュニティです